

豊橋技術科学大学長 殿

1年2月28日

審査委員長

栗林栄一 印

論文審査及び最終試験の結果報告書

このことについて、下記の結果を得ましたので報告いたします。

記

学位申請者	田中 勝	学籍番号	第 823623 号
申請学位	工学博士	専攻名	システム情報工学
論文題目	都市住宅地の Mixed Development に関する研究		
公開審査会の日	平成元年 2月 20日		
論文審査の期間	平成元年 1月 19日~平成元年 2月 23日	論文審査の結果	合格
最終試験の日	平成元年 2月 20日	最終試験の結果	合格

論文内容の要旨

この論文は都市住宅地計画に際しての、計画手法としてのMixed-Development:即ち階層混住の達成手法に関する研究である。ミックスとは、本来は住宅地の居住者の階層混合を意味するが、転じて住宅の型の混合をも意味し、住宅地計画上の重要な課題である。我が国では十分な検討がされなかったが、公営住宅団地において、高齢者や低所得階層ばかりに特化するケースが著増し、社会問題化されてきており、今後、公営住宅の建て替えや新規建設に際して、ミックスの在り方が、大きな課題とならざるを得ないと予想される。第1章では、この論文がこうした課題に先行的に、取り組んだものであることが示されている。

第2章で、公営住宅の制度的制約により、公営住宅団地では高齢者化・低所得層化の進行が必然的であり、ここでのコミュニティの破壊を避けるためには、ミックス等の方策の対応が必要とされることを示し、次いで、ミックスを論じる前提としての、住宅の型、水準、居住者のライフサイクルと住要求の関係(第3章)、都市の住宅地構成(第4章)を論じた。更にミックスの現状を、まずモデルを一般住宅地に求めて、その法則性からミックスの基本的特性を分析し(第5章)、さらに公団住宅団地での複数住戸ミックスのケーススタディ(第6章)、親子二世代間居住に望まれているミックスの在り方の検討(第7章)を試みている。以上の総括として、第8章で結論として都市住宅地の現状を整理し、将来のミックスの在り方を提示している。

審査結果の要旨

この研究は、現在の都市・住宅計画上の、重要な課題に取り組んだもので、主題が先駆的で独創的である。都市住宅地のミックスディベロップメントは、諸外国も含めて、各種の意見が提示されてはいるが、その必要性や必然性、更に量的・質的な現状分析について十分な検討がなされてきたとは言いがたい。しかし現実には公営住宅団地の事例に見られるように、社会問題が生起しており、解決を迫られる課題になっている。本論文はこの困難な研究課題に対して、膨大な調査や統計解析によって、実証的に裏付けのある問題提起、構想提示を行った力作である。一般住宅地や、複数の住戸形式を持つ公団住宅団地のケーススタディから、多様な住宅型の混在が、住宅間の住み替えを容易にし、居住者のミックス化に寄与していることを示し、対比される公営住宅の制度的硬直化の問題点と対策の指針が明らかにされた。

発表済みの関連論文は、既に関係学会内において評価されており、本論文は学術上重要な問題を提起しているが、更に、今後の問題住宅団地での改善策の提示として、住宅政策への貴重な提言となっており、社会的にも評価されることが大いに期待される。

よって、本論文は工学博士の学位論文に相当するものと判定する。

審査委員

栗林栄一 印

三宅 醇 印

印

紺野 昭 印

大森 元 印

印

(注) 論文審査の結果及び最終試験の結果は「合格」又は「不合格」の評語で記入すること。